

アミール・ツアルファティ氏 ジャパンツアー 2017年7月12日
川崎 リビングウォーターチャーチ 第一部「全ては預言された神の計画通りに」

<https://youtu.be/MvH0MRx6004>

.....

シャローム！今日の午後、ここにいられることをとても光栄に思います。とても感謝しています。(拍手) ありがとうございます。すっかり良くなりました。皆さんのお祈りに感謝します。通常、敵が攻撃してくるということは、何かすごい事が起こる証拠です！今日はとても素晴らしい事が起こることを期待していきましょう。2時間前まで、「カワサキ」というのは、私にとってはバイクでしかありませんでした！今は、聖徒達の町であるということが分かりました。神が、世界中の全ての場所に、羊たちを置かれるということをととても素晴らしいと思っています。しかし、私たちはこの世の者よりは大きくなることはありません。第一に、神はいつも多数派よりも少数派にご好意を置かれました。申命記7章で、神はイスラエルの民に言われました。「それは、あなたがたの人数が多かったからではない」(書記注:申命記7:7参照)と。イエスは、人々がイエスに着き従ったときに、マタイ7章でこう言われました。

13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。

14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれです。

(マタイ7:13~14)

そのことについてよく考えるなら、この世では私たちは少数派です。そして、私たちが天に昇った時には、私たちは多数派ではなく、私たちが全てです。私たちと御使いたちだけです。そして、御使いたちは人間ではありませんから、人間の中では私たちだけです。そして、イエスと共に統治するためにここに戻ってくる時には、私たちはまた少数派になります。そして、イエスが全てを新しくし、新天新地を造られる時には、私たちは再び、私たちだけになります。私たちが他の者と混ざり合っている限り、私たちはいつも少数派です。ですから、そのことに対して心配する必要はありません。これは、御言葉の一部です。しかし、皆さんが心配すべき事は、神が皆さんに「しなさい」と言われていることを、皆さんがしているかどうかです。私は長いこと教え続けていますが、この世界は二つの異なる軌道から成り立っています。一つの軌道は世界情勢です。そして、信じがたい事ですが、3,000年近く前に書かれた事が、今のニュースより余程正確なのです。ですから、中東で、ヨーロッパで、アメリカで、ロシアで、サウジアラビアで、…起こっている事全てが、前もって伝えられている事なのです。ですから、まず、世界情勢という軌道があります。もし皆さんが、今、この川崎を発ってホワイトハウスに行ったとして、ドナルド・トランプが大統領であることを辞めさせようとするなら、どうか、試してみてください。それは不可能です。シリアの内戦を止めようとしてみてください。それも出来ません。ロシア軍をロシアに戻そうとしてみてください。イラン軍をイランに戻そうとしてみてください。トルコ軍をトルコに戻そうとしてみてください。スーダンとリビアがイスラエルを愛するようにしてみてください。それは出来ません。それは、神が人間の心をご存知だからです。モーセが、(エジプトの)パロの前に行く前に、神は、既にパロの答えをモーセに語られました(書記注:出エジプト4章21節参照)。

「ちょっと待って！パロはまだモーセに会ったこともないのに！」

しかし、神はご存知だったのです。それは、私たちの神が全てをご存知だからです。主は全能で、遍在（全ての場所におられる）です。ですから、主が居られる所では、主は過去と現在だけを見ておられるのではないのです。主は、これから起こる事——未来についてもご覧になることがお出来になるのです。だから、神は、イザヤ書 46 章 9～10 節でこう語っておられます。

- 9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。
10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事すべてを成し遂げる』と言う。

（イザヤ書 46:9～10）

神は、神の子どもたちに、神のご計画を知っておいてほしいと願っておられます。しかし、人々が神を拒絶したら、人々が神に背を向けた時、神は、人々の目を盲目にされます。神は、人々が他のことを信じることを許可されるのです。第2テサロニケ 2 章 7～12 節には、はっきりと書かれています。

- 7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。
8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。
9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、
10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。
11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。
12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

（第二テサロニケ 2:7～12）

このように、まず、真理の言葉を拒絶することが見られます。真理の愛を拒絶します。それはもちろん、彼らが神を拒絶したから、神は惑わす力を送り込まれるのです。神は、皆誰もが、イエスの事を知って救われることを望んでおられます。第二ペテロ 3 章 8～9 節を読んでみると分かります。

- 8 しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。
9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

（第二ペテロ 3:8～9）

このように、これは神次第です。そして、神は、全ての人が信じてほしいと願っておられるのです。私

たちの神は、人々を祝福することを捜し求めておられ、人を呪うことを捜し求めてはおられません。私たちは神を愛します。それは、最初に神が私たちを愛してくださったからです。皆さんが神に対してニコリと微笑むことを待っておられるような、恐ろしい神ではないのです。2,000年前に、神は皆さんにニコリと微笑まれました。そして、ずっとずっと人間はこのようにしかめっ面をしてきました（笑）しかし、神の微笑みはいつまでも続くものではありません。この2,000年の間、神はずっと異邦人に微笑んでこられました。そして、私たちの数が数えられていることを、私たちも認識しています。

ダニエル書に書かれていることで分かります。神の、救いのご計画を世が見るために、神が具体的に定めておられる時がそこには書かれています。ダニエルは一つの小さなことに対して祈りをささげていたのですが、神は、ダニエルが望んでいた以上のはるかに大きな事を啓示されました。ダニエルは、イスラエルの民がバビロンに捕囚されてから70年経ったら、神がイスラエルに戻して下さるかどうかわかりたかったのです。私たちが1つの小さなことに忠実であったときに、神は本当に大きな事を与えて下さるのです。人々が70年間、神に背を向けていた時にも、ダニエルはそれでも忠実に祈り続けていました。彼は聖書を学び、預言者エレミヤが言った事（書記注：エレミヤ25:11～12参照）を知っていました。彼は、イスラエルが元の地に戻る時期が来ている事を知りました。そして彼は、神に忠実に尋ね求めました。神がエレミヤに与えた預言、約束について聞いたのです。神はダニエルに、はるかに大きな啓示を与えてくださったのです。神はダニエルに仰せられました。

まず、最初に神が語られる前に、ダニエルは明らかに祈っていました。彼の祈りは価値あるものでした。まず彼がしたことは、彼自身の罪を告白し、国の罪を告白しました。そして、ひざまずき、自分が全く無知な者であると告白しました。そして、彼は遜り、「自分は何一つとして、自分がしたことのためではなく、しかし、あなた（神）の約束のために」と言った時に、神はダニエルに御使いを送りました。大天使ガブリエルです。わたしは時々、ガブリエルはKAWASAKIのバイクに乗って来たのかな～と思います（笑）。ガブリエルはダニエルに言いました。ダニエルが祈り始めて、語った瞬間に「あなたは本当に愛されている。神はあなたの事を本当に愛しておられる。なぜなら、あなたがしゃべり始めたその瞬間に、神から命令が与えられたんだ！」天では、神が司令官です。あちらには民主党（アメリカの）はありません（笑）。神はガブリエルに「お願いだからダニエルの所に行ってくれないかな？」という風には言いませんでした。コンニチハ！じゃなくて、immediatelyは日本語で何て言いますか？ただちに？ただちに！ハイ！ただちに！行け！ただちに！行きなさい！と（笑）そしてこのメッセージをダニエルに伝えなさい。その速さたるや、想像できますか？まず、ガブリエルは主に会いに行かなければなりません。そして、主は「ダニエルの所に行きなさい！」と言いました。「お願いだからダニエルの所に行つてよ～」とは言いませんでした。ハイ！そして、ガブリエルはダニエルの所に行きました。そして、そこでダニエルは遥かに大きな啓示を受け取りました。そして、ダニエルはここで啓示を受け取りました。そして皆さんも啓示を受け取ることが出来ます！皆さん、もし、ダニエルが啓示を受け取った時に（メモをとって尻のポケットにしまい込むジェスチャーをする）、こんな風になっているのを想像できますか？ダニエルは神様から何かを受け取ったのか？というときに、（手を振ってNOのサイン）ノー。イエスはイスラエルの栄光です。イエスは世界に啓示を与える為に来られました。ルカの福音書2章25～32節を読んでみましょう。

- 25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。
- 26 また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。
- 27 彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入ってきた。
- 28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。
- 29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。
- 30 私の目があなたの御救いを見たからです。
- 31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、
- 32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。

(ルカ 2:25~32)

日本語の聖書でも、32節は異邦人を照らす啓示の光と書いてありますか？いいですね！アリガトウゴザイマス！異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。イエスは2つの主な目的を持って来られました。世界を救うため、十字架で死に、世界を救うため。もちろんそれもありますが、それを通して、ご存知の通り、主は十字架で死なれました。それはもう、歴史的事実です。誰もそれを否定することは出来ません。ローマ帝国も、ユダヤ人達も否定できませんでした。それはクリスチャンではない普通の人が書いた歴史書にも書かれています。ただ、イエスは皆さんのために死ぬためだけでなく、もっと大きな事のために来られました。それは、皆さんに啓示を与えるためです。さて、私は預言者(prophet)ではありません。私がここに立って、「主がこう言われた」と言って、私の想いを伝えるようなことは絶対しません。啓示と言うのは、神の御子のことがここに書かれていることです。皆さんの誰一人として、神の啓示を受け取れるほど賢い人はいません。全てはこの聖書の中に書かれているのです。この中には、「異邦人の何人かに啓示をもたらす」とは書かれていません。昔の預言者たちの語った事は、父祖たちに、神が語った方法だったのです。

- 1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、
- 2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(ヘブル 1:1~2)

ということで、神は昔、父祖たちには預言者たちを通して語られ、今のこの終わりの時には、御子イエスを通して私たちに語られています。ところで、イエスは絶対の絶対の絶対の絶対…に(笑)、預言者と矛盾することは言われませんでした。逆に、預言者たちの言った事を信じない弟子たちを、イエスはお叱りになりました。今日皆さんにお伝えしたいのは、神が皆さんに啓示したいと思う事、明かしたいと思われる事は全て、聖書の中に書かれています。それに対して、誰一人として付け加えることのないようにしていただきました。もし聖書の中に、中東の戦争について書いてあるなら、つまり、皆さんは中東で戦争が起こるということを知っていなければなりません。もし、聖書の中に、イスラエルの人たち

が、元の国に帰ることが出来ると書かれているのなら、皆さんはイスラエルの人々がイスラエルの地に帰るという事を知っていなければなりません。もし神が、イスラエルをまずは肉体的・物理的に回復させ、その後、霊的に回復させると言われたなら、皆さんはそれを信じなければなりません。ですから、もし神が、神の子どもたちをこの世から取り去ると言われたなら、皆さんはそれを信じなければなりません。そして神が、イエスが聖徒達と共に戻って来られる、と聖書に書かれているのなら、皆さんはそれを信じなければなりません。預言者たちが語ったことは、全て成就されなければなりません。

ルカの福音書 24 章、2 人の弟子たちが、墓が空っぽになっていると聞いた日曜日の午後、エマオに向かって歩いていました。朝早く、マリヤが墓に行きました。そして、そこが空っぽであることを見ました。そして、彼女はペテロとヨハネを呼びに行きました。それから、彼らはそこが空であるかどうかを確かめに、走って行きました。

「??????」

頭をかいて… (笑)、そして彼らは家に帰りました。

そして、すべての弟子たちに知らせました。

「お墓が空っぽだった (泣)」

それが、こんにちのクリスチャンたちの様子です。この聖書に書かれている私たちへの最大の約束は、脇に追いやられて、私たちは自分に

「私たちは苦しまなければならぬ。そういうものなんだ！」

と、言い聞かせています。しかし、主は基本的にこのように言われます。

「あなたたちに言うておきます。まず、皆ここを出て行くんだ。私があなたたちを試練の時から取り去るから！これから迫り来る時から、私はこれからこの世界にもたらそうとしている裁きに、あなたがたを定めてはいないのだ。そして、その言葉をもってお互いに伝え合い、励まし合いなさい」

と。それから、信じている者たちは何をするでしょう？

「いい知らせがある！ 私たちは患難を通るんだ！」 ???

それが良い知らせですか？それが良い知らせなら、悪い知らせとは一体何でしょう？

「心配しなくていいよ！ 私たちは携挙されるんだから！ 私たちはウエルダン (こんがり焼かれた) された後、それから上に上がるんだ！」

でも、そんなにワクワクしないで！上に上がった瞬間に、すぐに戻って来るんだから！バンジージャンプみたい (笑) 何で？だって私たちは、携挙が大患難の最後に起こると信じてるから！そして聖書には、イエスが聖徒達と一緒に戻って来られると書いてあるから！だから、私たちが上がったら、すぐに戻って来なくちゃ！

?????

私たちは7年間苦しんで、ウワ〜ッ！ローストチキンみたいに焼かれて、お互い励まし合わなければならなくて、上に上げられたと思ったらすぐに降りてきて…そんなことなら、信じない方がマシだ！と思います。

皆さん、理解しておかなければなりません。神はソドムとゴモラを滅ぼされる前に、義の者たち (ロト一家) を悪い者たちの中から取り去られました。神は大洪水で世界を滅ぼされる前に、ノアを霊的だけ

ではなく、肉体的にも救ってくださいました。皆さん、理解しておいてください。全てを霊的に考えるのは良いことです。この世では苦しみもありますが、霊的にならなければなりません。でも、神は私たちに肉体的・物理的にも対処されます。(親指と人差し指を伸ばして、)このようにつねってみてください。聖書にはこうあります。この体は、卑しいものだ。どうしてでしょう？ 20年前に撮った写真を取り出してみてください。そして、皆さんの隣に置いてみてください。それがどうして卑しいのか、と、これで皆さんは理解できると思います。私たちは死に向かっているのです。そして私たちは、死の道のりを進んでいます。罪が世に入り込んだ時、死が入り込みました。その瞬間から、900年生きようが、800年生きようが、700年生きようが、でも人間は本当に悪なので、神は人間の寿命を120年と定められました。それでも、まだ、私たちは悪です。それが私たちです。だから神は言われました。

「わたしの子どもたちよ。わたしに従う者たちよ。あなたがたに特別な約束をしよう。まだどの目も見ることがない、どの耳も聞いたことがない。それが、特別に用意されているものなのだ。しかしまず、この肉体から始めよう。」

第一コリント 15:50~58 を読んでみましょう。

- 50 兄弟たちよ。私はこのことを言うておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。
- 51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。
- 52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。
- 53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。
- 54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」として行われている、みことばが実現します。
- 55 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」
- 56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。
- 57 しかし、神に感謝すべきです。神は私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。
- 58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。

(第一コリント 15:50~58)

アーメン！それでは皆さん、こちらをご覧ください。そして、自分をつねってみてください。この体は、ずっとこのままではありません。皆さんは、変えられます！私たち全員が変えられるのです。

「でも、ちょっと待って、ちょっと待って！明日もし私が死んだらどうなりますか？この全てを私は逃してしまおうのでしょうか？(泣)どれ一つとして御国を逃したくないよ(泣)これが私に与えられた約束なのに(泣)」

しかし、主は言われます。

「心配しないで。もしあなたが信じる者なら、そして明日死んでしまったとしても、」
第一テサロニケ 4:13~18 を読んでみましょう。

- 13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他に望みのない人々のように、悲しみに沈むことのないためです。
- 14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずですよ。
- 15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。
- 16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、
- 17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。
- 18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:13~18)

アーメン！私は、最初に言ったように皆さんに目新しいことを伝えに来たのではありません。皆さんが知るべき事は全てこの聖書の中に書かれています。しかし、問題は、あまりにも長い長い年月、教会は聖書のこの部分を見捨ててきました。そして、「携挙なんてない」と言う牧師たち、そのような牧師達を私もたくさん知っています。(聖書を指さして) 今、ちょうど読んだばかりですね！だから、聖書が神の御言葉でないと信じているのか、それともこれが、神様が、この中で神がいないと信じていないのか、どちらにしても大変な事です。そして、私がすごくいいな、と思うのは最後の部分、

- 18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4: 18)

私たちはこの言葉をもって互いに励まし合わなければなりません。だから、ヘブル人への手紙 12 章には、このようにあります。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。

(ヘブル人への手紙 12:1~3)

このように、聖書の中には私たちが忍耐をもって、私たちの前に置かれた競争を走り抜かなければならないと書かれています。ここに書かれている通り、私たちはイエスを見上げながら、それをしなければなりません。でも、イエスはどこにいますか？御父の右に座しておられます。言い換えれば、聖書の中には、私たちがこの世の中でどんな状況に置かれたとしても、ここにあるこの状況を私たちが耐えられる唯一の道は、主を見上げることだけです。イエスが遍在されているというだけでなく、イエスは御父の右に座しておられる。そこに私たちは行かなければなりません。そこに私たちは目を向けなければなりません。主は、私たちの信仰の創始者であり、完成者であります。ちょうど読んだ通り、もうすぐイエスは私たちがイエスの元に迎えてくださいます。そして、主のおられる所に、私たちもいるためです。これは本当に素晴らしい約束です。ヨハネ 14:1~3 を読んでみましょう。

- 1 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
- 2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。
- 3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ 14:1~3)

ワーオ。このようにイエスが私たちに言われました。わたしは、あなたがたをわたしの元へ迎える。そして、わたしのいる所——上です——に皆さんもいるためだとおっしゃいました。それなのに、どうして私たちは問題を抱えているのでしょうか？この約束に何か問題があるのですか？どうして、「主は私たちが本当に愛しておられるから、これから迫り来ようとしている災いの中から私たちを取り去る」という約束を信じることに問題があるのでしょうか？

「私は聖徒になりたい！この全ての苦しみを受けたいんだ！だから、大患難に突入したいんだ！私はレア（生）ではいたくない！ウェルダン（しっかり焼かれる）がいいんだ！」もしそう思われるのなら、どうぞ、ここに残ってください(笑)。

私が今日の午後、皆さんにお伝えしたいことは、どうか、希望を失わないでください。お互いに励まし合い、そして慰め合ってください。私たちは御父の右に座しておられる方を見上げながら、忍耐をもって、競争を走らなければなりません。そして、自分たちを花嫁として、花婿が迎えに来られる時に備えましょう。聖書の中にはこうあります。主が私たちが迎えに来られるその日その時は誰にも分からない、とあります。だから、携拳が起こるといのは、皆さんが思いがけない時に起こるのです。二人の女が臼をひいていると、一人は取られ、一人は残されます（マタイ 24:41 参照）。二人が畑にいと、一人は取られ、一人は残されます（マタイ 24:40 参照）。神は「おい、2017年9月23日にそうするからな！」などと言われません！その日、わたしは来る！なんてことは言われたいのです。

「本当？よかった～！じゃあ、私はまた目覚まし時計をセットして、ラスベガスに行こう。そして、その一週間前に戻って来て、『赦してくださってありがとうございます！』って言おう。それで携拳に備えよう。それでオッケーだ！」

神は、私たちが常に準備が出来ていることを求めておられます。だから、神は私たちにその日その時を告げられません。神は人間がどのように考えるかをご存知です。聖書に書かれている通り、泥棒が夜の

何時に来る、と知っていたなら、私たちはそのとき不意を突かれることは絶対にはないのです(マタイ 24:43~44 参照)。私たちにはその日その時がいつであるかは分かりません。しかし私たちは、時と季節を感じることが出来ます。今朝、東京でホテルの部屋で寝ていた時に、酷い頭痛がしました。しかし、窓の外はとても美しく穏やかで、それぞれがそれぞれの事を考えて、それだけです。まるで、人生が素晴らしい、私たちは平和で、安全の中において、それが私たちにとっては一番大事なことだと思っているようです。第一テサロニケ 5:1~11 を読んでみましょう。

- 1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。
- 2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。
- 3 人々が「平和だ。安全だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。
- 4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。
- 5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。
- 6 ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。
- 7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。
- 8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。
- 9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。
- 10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。
- 11 ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

(第一テサロニケ 5:1~11)

ここにおられる女性の方で、出産経験のある方はいらっしゃいますか？手を挙げてみてください。OK。私は出産をしたことはありません(笑)。でも、私は妻が出産するときに彼女の手を握っていました。妻は陣痛に苦しんでいる時、私の手をグューーッと握り返してきました。だから私も、子どもが生まれる時に痛みを経験したと言えるでしょう(笑)。でも皆さん、陣痛がどんなものか、産みの苦しみがどんなものか、ご存知ですか？最初はとても緩やかに、それがどんどん強くなって、どんどん強くなって、…どうしてわかるかと言えば、妻が握り返してくる手の強さで、その頻度がどんどん増して、1時間に1回が、1秒に1回に変わってくるからです。(額の汗をぬぐう仕草をしながら) 出産というのはホントに大変で、私の手がもげるかと思うくらい、本当に痛かったです(笑)。言い換えれば、皆が考えている「全てが完璧だ。」

「神なんていない。」

「国連を通して平和を得られる。」

という考えを持っている時、——私は国連 (United Nations) を「何にもしない連合」(United Nothing)

あるいは「不必要」(Unnecessary)だと言っています(笑)。世界は、何かこの世を良くするための良い考えが浮かぶと思っています。だから彼らは皆さんに言うのです。

「この世を救うために、それは可能だ。」

と。ちょうどフランスの新しい大統領エマニュエル・マクロンがそう言ったように。

「この地球を再び偉大にしよう。」

どのようにそうするのですか？オ～、ウララ～！

「だから、私たちはこのパリ協定に調印したんだ！」

これは100兆ドルかかりました。そこから何を得られるのか？

「それは30年以内に、地球の温度を0.03度下げるのだ。」

?????100兆ドル？アメリカだけでも、GDP年間3500億ドルを無駄にしました。膨大な数の仕事を失いました。そして、多くの場合、この負債は次世代に引き継がれるのです。だから彼らは、子どもたち全員を奴隷としているのです。何のためにそのような事をするのでしょうか？地球の温度の0.03度～1度下げる為に？この地球の温暖化が問題になったのはいつからでしょうか？カナダはアメリカよりも大きいですね。でも、アメリカの人口の10%しかいません。どうしてでしょうか？寒いからです！カナダは、食べ物を輸入します。アメリカは、食べ物を輸出します。どうしてですか？寒いからです！では、いつから暖かいことが問題になったのですか？オ～！暑すぎるね！皆さんに言いたいことがあります。地球温暖化は、二酸化炭素と何の関係もありません。例えを一つお話しします。夏には、人々がビーチに行きます。そこではサメがたくさんいて、人々を襲います。夏には、人がたくさんアイスクリームを食べます。オ～！サメの攻撃が増えると、アイスクリームがたくさん売れるんだ～！ということは、もし私たちがアイスクリームを食べる量を減らせば、サメの攻撃は減るのか～。?????

わかりますか？いいでしょう。ロンドンのテムズ川は、かつては凍ったのです。1814年までは凍ったのです。言い換えれば、1700年代から1814年までは凍ったのですが、それ以降は凍らなくなりました。1700年代にどれほどの工場が二酸化炭素を排出していたか、教えてください。ゼロです。しかし、温暖化していました。その当時は今よりももっともっと温暖化が進んでいました。つまり要点は、世は皆さんを洗脳しようとしているのです。彼らが平和、安全をもたらすことが出来る、この地球を再び偉大にすることが出来ると。その全てが、非常に裕福な一握りのごく少数な者たちが、この世界に流通しているお金をコントロールしようとしているのです。しかし、彼らには大きな問題があります。彼らは光を見て、「俺たちの方がよく知っている」と信じています。彼らは、皆さんよりも頭が良いと思っています。そして彼らは、この世を変え、直すのは「俺たち次第」だと思っています。そのやり方として、それを達成するには、「世界統一政府」を通してでないといけない。個人的な取引なしに、「世界統一経済」を通してでないといけない。そして、やがてそれは宗教的な側面も持ち、「世界統一宗教」へと繋がっていきます。イエスは当然、その中には含まれません。私たちは、再びこの世を素晴らしいものへと変えることができる、と。覚えていらっしゃいますか？彼らは「私たちには神は要らない」と言います。「私たちは、ただ良い人であればいい」と彼らは言います。「私たちは、自分たちを支配するものに従えば大丈夫」だと言います。そして、彼らは本当に長い年月をかけて、世界統一政府に持って行こうと働いて来ました。しかし、彼らが何かしようとするたびに、それは失敗しました。それは、人々がそれぞれの国、それぞれの文化で集結して行くからです。では、その国の違いや文化の違いをどうすれば失くすことが出来ますか？文化でも、宗教でも、政府でも、そことは一切関係のないものを見つければ良いのです。

「私たちは、幼稚園から小学校～大学に至るまで全ての人たちを洗脳させて信じさせなければならない。」

「この惑星を救うためなら、世界統一政府が必要だという風に信じ込ませなければならない。」

「そちらの方向に推し進めなければならない」

と彼らは言います。その途上で、彼らは大きな事故に遭いました。ドナルド・トランプが事故の要因の一つです！彼は大事故でした。大きな音をたてた事故です。そして、とてもとても危険な事故です。どうしてでしょう？それは彼が知っているからです。彼は、この世界統一政府を推し進めている者たちを知っているからです。彼ら全てのトリック、仕掛け、手口を、トランプは知っていました。どうしてでしょう？それは、2年前まで、彼も1人の裕福な億万長者だったからです。彼はエンターテインメントビジネスの中に身を置いていました。だから、これら全ての人々は彼の事を愛したのです。彼の開催したパーティーに行き、彼のお金を必要とし、彼に全ての秘密を打ち明けました。しかし、彼はとても賢かったのです。彼らが言った事を、彼は全て、仕掛け、人々の中で仕掛けていた全ての手口を聞きました。知識は力です。そして、彼は「私は大統領になる」と決心しました。

「オオ～～！何だって？全て手の内を彼に知らせてしまった！彼はパーティーが大好きで、大金持ちだから、冗談だと思っていたのに！」

トランプは彼らを知っていました。だから、彼らは今、ドナルド・トランプを破滅に追い込もうとしているのです。毎日、毎時間、毎分、彼は大事故です！この8年間、誰かさんがアメリカを再び小さくしました。そして、誰かが出て来て、「私はアメリカを再び偉大にする！」と言いました。この8年間、誰かさんは、イランと北朝鮮とキューバと繋がろうとしました。どうしてでしょう？これら3国はまだ、世界的なエリートがコントロールしていない経済だからです。だから、キューバとの関係を温め、イランに全ての事を与え、そして北朝鮮と対話をして、彼らを落ち着かせ、彼らの言うとおりにしよう、と。2016年11月がやって来ました。大事故!!!この男は言いました。「No キューバ！No 北朝鮮！イラン追放！」オ～。彼らは支配することが出来なくなりました。だから彼らはトランプを排除しようとしています。

さて、私はここでニュースとか噂話をするために来たのではありません。私がここに来たのは、こんにちこの世界で起こっている全ての事が、既にもう伝えられているということです。預言者エゼキエルが言いました。

「イラン、ロシア、トルコ、スーダン、リビア、これらの国は備えをしてイスラエルに攻めて来る」と。聖書にはこうあります。主がイスラエルの町を復活させる。イスラエルの人々を回復させる。彼らをイスラエルの地に戻す。そして、彼らを再び偉大にする、と約束されました。神は、彼らが繁栄する、と言われました。そして、彼らが安全で平安に暮らす、と言われました。そして、敵がそこにやって来るのは、宗教的な問題ではなく、そこから何かを略奪し、奪うためにやって来るのだと言われました。そして我々は石油とガスを発見しました。そして、奇跡的にロシアが、この図の中に入って来ています。ロシアが本当にシリアの事を思っているとお思いですか？彼らが思っているのは、石油とガスのことです。イランがやって来ました。イランが本当にシリアの事を思っているとお思いですか？彼らは、自分たちの信じるシーア派イスラムを拡大したいと思っているのです。トルコがやって来ました。トルコが本当にシリアの事を思っているとお思いですか？彼らはただ、クルドが大きくなることをストップさせたいだけです。それぞれがそれぞれの思惑を持っています。しかし彼らには全く分かっていないのです。川崎の真ただ中で、人々が教会の中に座って、「何故彼らがあそこにいるのか？」、ここにいる人たちは、何が起こるかははっきりと分かっている。そして、ここにいる人たちは話の結末を知っています。中

東では、戦争のための準備があり、ヨーロッパでは偽メシアを生み出すことで忙しくなっています。新しいのが、フランスの大統領。雑誌「エコノミスト」の表紙には、フランスの新大統領が水の上を歩く写真を載せました。彼らはマクロンのことを「ヨーロッパの救世主？」と呼びました。彼は自分の事を「私がこの地球を再び偉大にする」と言いました。世は、準備が整っています。私たちは、彼（反キリスト）がここに来る前に、ここを出なければなりません。第二テサロニケ 2 章には引き止める者が取り去られるその時、と書かれています。6~10 節までを読んでみましょう。

- 6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。
- 7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。
- 8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。
- 9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、
- 10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

(第二テサロニケ 2:6~10)

微笑んでください！写真を撮る時に皆さんはニッコリしますね。私たちはもうすぐここを出て行くのです。「嫌だ！嫌だ！私は大患難を通りたいんだ！携拳なんて信じないぞ！中東で戦争が起こり始めているなんて信じないぞ！ドナルド・トランプが究極の合意をもたらすと言ってるじゃないか！」でも、人々が平和だ、安全だと言っている時に、突如として滅びが襲います。時々私が感じるのは、自分たちが患難を通らなければいけないと信じている人たちは、本当に信じているのですか？それは彼らが怠けているからです。彼らは「我々にはまだ7年ある」と思っているのです。「まだ眠ったままで大丈夫だから。」と考えています。ローマ人への手紙 13:11~14 でこのメッセージを終わりたいと思います。

- 12 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。
- 13 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちはやみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。
- 14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

(ローマ 13:11~14)

だから、私たちは目覚めなければいけません。夜が更けて、昼が近づきました。つまり、それは夜が終わりに近づいているという事です。もう、昼がやって来ようとしているのが私たちには分かります。ユ

ダヤの暦では、一日は夜から始まります。だから、昼の前に夜が来るのです。夜は「morning（朝）」と「mourning（嘆く、悲しむ、喪に服す）」、嘆いている時に朝がやって来る、と。創世記 1:5 を読んでみましょう。

5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。

(創世記 1:5)

夕があり、朝がある。だから私たちは、朝に属する者なのです。そして、夜はもうすぐ終わろうとしています。だから、これらの言葉をもって、互いに慰め合い、励まし合いましょ。では一つ皆さんにお伝えしたいことがあります。私は本当に、神が私をここに送られたのだと信じています。その理由をお話しましょう。それは、神は日本を愛しておられるからです。神は、多くの人々が救われるようにと願っておられます。神は、神の子どもたちが眠りから覚めることを望んでおられます。「キリスト教」を演じるのを止めて、クリスチャンとしての信仰を始めることを望んでおられます。私たちは宗教に関することをするのではなく、これは宗教ではないという事を私たちはすっかり忘れていて、これは神と私たちとの関係で、神は、私たちが外に出て行き、終わりの時の事について堂々と語ることを望んでおられます。地震や、疫病、飢餓、戦争や戦争のうわさ、これらは終わりのしるしです。イエス様は言われました。

32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。

(マタイ 24:32)

いちじくの木というのはイスラエルのシンボルです。イスラエルは既に回復しています。神は、日本のクリスチャンたちに宗教的なものを振り払って、聖霊様に満たされて、そして外に出て行き、弟子を作って欲しいと望んでおられます。何を言うかは心配しなくても良いのです。主が言葉をくださるからです。皆さんがすべき事はただ、神に従う事だけです。ゴスペル（福音）とはゴスピル（錠剤）、あなたがたは箱いっぱいのゴスピルを持っています。皆さんがすべき事は、死にゆく人たちにゴスピルを配る事です。皆さんはその人に薬を与えます。その人が飲もうと飲むまいと、それはその人の問題なのです。皆さんの問題は、「あなたはその人に薬を渡しましたか？」私たちの仕事は与えることです。彼らの仕事はそれを飲むことです。私たちの仕事は話すことです。彼らの仕事はそれを聞き、受け入れることです。エゼキエル書 33 章を読んでみましょう。私のユーチューブ動画をご覧になっている方はご存知だと思いますが、私は一人一人の終わりの時の事を知っているクリスチャンたちに、見張り人になるようにと呼びかけています。7 節から、9 節を読んでみましょう。

7 人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの家の見張り人とした。あなたは、わたしの口からことばを聞くと、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。

8 わたしが悪者に、『悪者よ。あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もし、あなたがその悪者にその道から離れるように語って警告しないなら、その悪者は自分の咎のために死ぬ。そしてわたしは彼の血の責

任をあなたに問う。

9 あなたが、悪者にその道から立ち返るよう警告しても、彼がその道から立ち返らないなら、彼は自分の咎のために死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。

(エゼキエル 33:7~9)

私たちには責任があります。私たち全員に責任があります。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

通訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>